



新春特別対談

「令和」と太宰府をひもとく

中西進先生 楠田大蔵市長

『万葉集』研究の第一人者といわれ、元号「令和」の考案者とされる中西進先生に、太宰府への思い、市の持つ役割、史跡・遺跡との関わり方などについて楠田大蔵市長が話を伺いました。

元号「令和」とは

市長 お世話になっております。中西進先生より先日お寄せいただいたメッセージは、コロナ禍に苛まれる市民の心を本当に癒やしていただきました。改めましてお礼申し上げます。

さて、新元号「令和」もはや三年を迎えようとしていますが、太宰府市がご縁をいただきましたことは大変光栄なことでありました。改めまして、「令和」という

元号について中西先生の思われるところをお伺いできればと存じます。

中西先生 「令和」という時代は、戦争のなかった「平成」の次に、その平和を守り、より美しいものに築き上げていこうという時代ではないでしょうか。平成のころから多くの自然災害に見舞われ続け、また今疫病にさらされ、決して生きやすい時代ではないのかもしれない

ん。そんな中でも、日本の誇るわしさを、美しさというものを大事にしながら、乗り越えていってほしいと願っています。

史跡指定1000年を迎える太宰府市の未来

ん。そんな中でも、日本の誇るわしさを、美しさというものを大事にしながら、乗り越えていってほしいと願っています。

市長

新型コロナウイルスの影響で、昨年の令和最初の初春令月に先生をお招きできなかつたのは本当に残念でしたが、今年には本市の大宰府跡や水城跡が史跡指定1000年を迎える節目の年でもあり、改めて中西先生のご来訪を心待ちにしております。

先人が築いてきた太宰府の歴史を、市長としてさらに次の1000年へとしっかりと引き継いでいかねばとの思いであります。先生から太宰府への思いなどを披露いただければと存じます。

中西先生

大事な節目の年に、機会をいただけることは光栄です。史跡という観点で申し上げますれば、史跡・遺跡というのは、先人たちの文化から私たちが学び、

誇りを得ることで生きるものです。もちろん万全の注意を払って保護することが必要ですが、人々から隔離し、殺してしまつては意味がないのであつて、なるべくみんなが見られるようにすべきです。その裾野の広がりとして、観光もあつて、より多くの人に触れられ、地域社会の役に立つものとなるようにしていただきたいと思つています。

もう一点、「市」というのはとても大事なものです。地方自治体には、都道府県の下に市町村があるというヒエラルキーだと考えがちですが、そうではない。都道府県というのは国の分割統



大宰府政庁跡

治の仕組みでしかないですが、市というのは、市民の総意をもつて自発的に集まつてきたものであり、それが尊いのです。太宰府市が、市民の皆さんとともに、「遠の朝廷」として培つてきた文化を生かして、日本人のお手本となつてくれるよう期待しています。

結びに

市長 新型コロナウイルスの影響はまだまだ続きそうですが、万全の態勢でお迎えしたいと考えております。結びに市民に向けて一言いただければと存じます。

中西先生 一年越しの願いの成就となりますが、かぐわしい梅の香りのする季節に、太宰府をお訪ねすることができると、大変楽しみにしております。

市長 中西先生のご来訪を心よりお待ちしております。ご自愛いただき、本年もますますご壮健であられますようご祈念申し上げます。